

2009年9月29日（火）

2009年新司法試験の結果発表を踏まえて — 修了生諸君へのメッセージ —

I 慶應義塾大学法科大学院修了生の2009年新司法試験受験結果と、それに対するコメント

法科大学院名	出願者数	受験予定者数	受験者数			最終合格者数			最終合格率（合格者数／受験者数）					
			総計	既修	未修	総計	既修	未修	順位	全体	順位	既修	順位	未修
一橋大法科大学院	144	144	132	91	41	83	60	23	1	62.88	3	65.93	1	56.10
東京大法科大学院	451	446	389	272	117	216	168	48	2	55.53	5	61.76	2	41.03
			Hi 卒	7	-		2	-				28.57		-
			Hi 既修	24	20		10	6				41.67		30.00
			Hi 既修	55	31		26	13				47.27		41.94
			Hi 既修	186	66		130	29				69.89		43.94
京都大法科大学院	333	332	288	205	83	145	120	25	3	50.35	7	58.54	6	30.12
			Hi 卒	3	-		1	-				33.33		-
			Hi 既修	9	12		3	0				33.33		0.00
			Hi 既修	57	39		16	7				28.07		17.95
			Hi 既修	136	61		98	22				72.06		36.07
神戸大法科大学院	164	163	149	109	40	73	59	14	4	48.99	12	54.13	4	35.00
愛知大法科大学院	67	52	41	21	20	20	12	8	5	48.78	8	57.14	3	40.00
慶應義塾大法科大学院	360	360	317	218	99	147	118	29	6	46.37	12	54.13	8	29.29
			Hi 卒	4	-		1	-				25.00		-
			Hi 既修	18	8		3	0				16.67		0.00
			Hi 既修	40	30		16	7				40.00		23.33
			Hi 既修	156	61		98	22				62.82		36.07
中央大法科大学院	435	434	373	250	123	162	136	26	7	43.43	11	54.40	20	21.14
			Hi 卒	10	-		0	-				0.00		-
			Hi 既修	13	17		3	1				23.08		5.88
			Hi 既修	47	31		14	7				29.79		22.58
			Hi 既修	180	75		119	18				66.11		24.00
北海道大法科大学院	175	174	156	90	66	63	45	18	8	40.38	14	50.00	10	27.27
首都大東京法科大学院	103	103	87	62	25	34	28	6	9	39.08	19	45.16	14	24.00
千葉大法科大学院	74	74	64	54	10	24	21	3	10	37.50	23	38.89	7	30.00
総計	9734	9564	7382	3274	4118	2043	1266	777		27.64		36.67		18.87

1年余を経て、この4回目のコメントを掲載することになりました。今年は、客観的な数値を中心に簡潔なもの・数字に自ら語って貰うものにして、迅速に意思疎通を図ろうと考えていました。しかし、修了生諸君、特に仲間を気遣う修了生諸君からのコンタクトの

余りの早さに、逆に全体状況を十分に見極める必要があると判断し、結果的には、コメントの簡略化は予定通りで、企画スケジュールだけを若干早めて臨むことになりました。結果発表から既に20日を経て、結果の如何に拘わらず、多くの諸君は落ち着いて次の段階の計画を纏めつつあると思います。その中にこのコメントから得るところを織り込んで戴ければ幸いです。

慶應義塾大学法科大学院修了生を全体としてみると、2009年の最終合格者数は147名で[74校中、東京大学(216名)、中央大学(162名)に次ぎ第3位]、最終合格率(合格者/受験者)は46.37%[上掲表の通り、第6位]でした。勿論、以前から述べてきたように、他法科大学院との単純に数値的な比較は、各校の条件が様々すぎて、また、情報が不十分すぎて、余り意味があるとは思いません。反面、自己点検・評価という観点から、これらの数値を眺めることには大きな意義が認められるでしょう。修了生諸君・教職員の懸命の努力の結果として、厳格過ぎるとさえいわれる学習指導方針の維持の下での努力の結果として、誇りをもって、その健闘を評価したいと思います。当事者以外には想像し難い不安に苛まれながら、耐えた、挑み続けていること自体が評価されるべきことであると思います。ただ、最終合格率は些か不本意なものに終わったのではないのでしょうか。修了生諸君の半数以上

が、法曹養成プロセスの次段階に進む為には不十分な能力しか身に付けていない、と判断されたことは、指導してきた教員として、無念でなりません。2006年・63.41%、2007年・63.83%、2008年・56.51%と推移してきた合格率が妥当なものであったとすれば、合格者数の減少という今年の事態下においても、10.14%の低下は共に深刻に受け止める必要があるのかもしれませんが（ちなみに、全校平均合格率は、2006年・48.25%、2007年・40.18%、2008年・32.98%、2009年・27.64%で、低減率は緩み、5.34%でした）。もっとも、2009年3月修了生の累積GPAと可否との相関については、下掲の表にあるように、GPA3.24～3.00の帯で従前に比して著しい（恐らくは説明可能な）変化が起きてはいますが、これを除けば、GPA2.50以上の帯毎の合格率に大きな変化はなく、GPA2.49以下（特に、2.49～2.25）

が急激に低減したことが看取されますので、要は、新司法試験の合格者数の減少と受験者数増加とに因る合格レベルの上昇の結果、また、2008年以前の修了生へのサポート不足

GPA	2006年3月修了者			2007年3月修了者			2008年3月修了者			2009年3月修了者		
	合格者	出願者	合格率	合格者	出願者	合格率	合格者	出願者	合格率	合格者	出願者	合格率
4.00～3.50	5	5	100.0	9	9	100.0	10	10	100.0	11	11	100.0
3.49～3.25	16	16	100.0	18	19	94.7	28	31	90.3	19	20	95.0
3.24～3.00	28	34	82.4	36	41	87.8	31	37	83.8	27	44	61.4
2.99～2.75	31	42	73.8	30	41	73.2	31	49	63.3	40	61	65.6
2.74～2.50	12	29	41.4	40	57	70.2	26	56	46.4	18	38	47.4
2.49～2.25	12	40	30.0	11	39	28.2	12	34	35.3	5	32	15.0
2.24～1.50	0	0	0.0	3	26	11.5	2	19	10.5	0	21	0.0
	104	166	62.7	147	232	63.4	140	236	59.3	120	227	52.9

※ 合格者数は修了年に行われた試験毎のものであって、累積値ではない。

が、主たる原因と推測することは可能です。

未修の諸君の置かれた状況が益々苦しいものと成って来ていることは否定できません。前年の試験の不合格者が翌年の受験者として加わり分母が増える為に、未修者の最終合格率は、2007年・60.29%、2008年・37.04%、そして、2009年には29.29%となりました。学習時間・熟成時間の絶対的不足が主たる原因であることは、中教審法科大学院特別委員会による改善の為の方策の提案を見ても、明らかですので、合格した諸君も含め、更に継続的な基礎固めの為の学習が必要であり、協力し合って取り組んでいかなければなりません。

慶應義塾大学法科大学院として、就中、修了生・フォローアップ委員会として、修了生諸君が必要とするアフター・ケアのどこまでを提供することが許されるのか、今年になって漸く、その境界線が姿を現してきたように思います。勿論、当然に許されるような事項であっても、それを実施する為の人的ならびに物的なりソースの調達やシステムの構築の難しさは、以前と何ら変わりません。むしろ、修了生の目には、状況は悪化するばかりに映じているかもしれません。しかし、準備は徐々に進められています。始められるようになった時点で、このホームページ等で呼び掛けていく予定です。注意して見て欲しいと思います。そして、まずは修了生それぞれが為すべき的確な現状分析に際しての助言を提供すること、その為の情報収集から、今年も着実に対応して行きたいと思います。

II 2009年新司法試験に合格した修了生諸君へ

(本項の最後に、修習についての説明会に代わるDVDの上映等のお知らせがあります。)

改めて、心からの御祝いを申し上げます。おめでとうございます。

修習生活への、そして、事務所回り等を始めてみて、修習後の生活への一層の期待と大いなる不安に胸膨らませていることと思います。慶應義塾大学法科大学院修了生としての自信をもって、しかし、力まず、焦らず、誠実に、互いに支え合いながら、歩み続けていって下さい。

また、慶應義塾大学法科大学院の今後の展開を注意深く見守り、必要に応じて率直な御意見を寄せて戴くと共に、特に後輩達への適確な助言・指導を中心とした御協力をお願いしたいと思います。今年も10月上旬・中旬に、諸君達と在校生との談話・意見交換の機会が設定される予定ですが、そのような形での協力への参加も宜しく申し上げます。

なお、司法研修所から、各法科大学院は今年の修習予定者に修習事前説明会に代わるものとして作成したDVD（2.5時間程度）を視聴させるよう、依頼を受けています（今年から事前説明会は開催されません）。日弁連からも同旨の依頼を受けていますので、同時に上映する予定です。日時・場所は以下の通りです。適宜の日を選んで視聴して下さい。

- 1) 10月24日（土）14：00 上映開始 三田・南館ディスタンス・ラーニング室
- 2) 11月04日（水）16：30 上映開始 三田・南館ディスタンス・ラーニング室
- 3) 11月16日（月）13：00 上映開始 三田・南館ディスタンス・ラーニング室

Ⅲ 残念ながら不合格となった修了生諸君へ — 今年も同じ言葉ですが……

落ち着きましょう。遮二無二勉強を始めても空回りになる危険があります。客観的に他の分野に展開せざるを得ない諸君、展開すべきか続行すべきか、あるいは一時待機すべきか、迷い戸惑っている諸君、不安・焦りを一人で抱え込んではいけません。蹲ってしまっただけではいけません。一時休み、気持を切り替えて、それぞれのプロセスを再び歩み始めましょう。それしかないのですから。

気持を切り替える為には、話すことが有効です。何処から如何にして再び歩み始めるかという問題に具体的に決着をつける為にも、言葉にして伝え、検討して貰うことが有効、且つ、多くの場合、必要です。最終的には諸君自身が歩く他ないことは良く分かっていると思いますが、その切っ掛けを得る為には、信頼できる相手・理解してくれる相手に語り、アドヴァイスを受けて下さい。

今年も集まって、諸君と個別的に話し合う機会を設けました（必要であれば、また別の機会に開くことも考えています）。フォローアップ委員会と有志の先生方、そして、同じ経験を通り抜けた修了生の先輩達が対応してくる予定です。下記の日時・場所に、必要な資料（新司成績通知）等を持参して集合して下さい。昨年と同様、最新判例解説講座等を初めとする、他のサポート情報も得られるでしょう。待っています。

日時：2009年10月5日（月）

17：00～

場所：南館2B41 & 42